

善徳寺だより 224号



願われて

ある学校の校長先生のお話です。校長先生が卒業式に、「今日、家に帰ったら卒業証書を持って、お父さん、お母さんへありがとうを言いなさい。そうしなければ、その証書はただの紙切れです」と言われたそうです。

ある学生が後に話すのに、「先生の話聴き、家に帰り『ありがとう』を言おうと思いましたが照れて言うことが出来ませんでした。どうせ言ったとしても、『これからは学費がかからんから楽になるわ!』ぐらいの返事だろうからとも思いました。しかし、意を決して両親の前で『ありがとう』を言いました。冗談のような返答があるかと思いきや、父が言葉を発しません。顔を見ると涙があふれていました。そして、『おめでとう。よく頑張ったな』と振り絞るように言葉をかけてくれました。「学生時代は、何か自分の力で学業を頑張りやり遂げたような気持ちになっていましたが、この親心に出会ってそうでなかったことに気づきました」との事でした。校長先生はこの生徒の話聴き、「この生徒は、今後どんな事があっても大丈夫、立派に生き抜く力が身についている。大きな拠り所があるのだから」とおっしゃっておられたそうです。

私達は、私の力を当てにし、私の手柄で生きているように思いがちですが、本当は大きな願いの中に生かされているのです。(武田公丸 阿弥陀経の法味のお話から)



仏教婦人会法座のご案内

万寒の折柄 ご健勝にてご送日のことと拝察いたします。本年もどうぞよろしくお祈りいたします。さて、下記のように仏教婦人会法座を勤修いたします。二日目昼席では、昨年より往生された会員を偲ぶ追弔会を勤修いたします。

婦人会法座ですが、女性も男性も関係ありません。どうぞお参りお聴聞いただきますようご案内申し上げます。なお、本堂は工事に入っておりますので、庫裏にて行います。

合掌

記

日時 2月20日(木) 昼席 13:30~15:30

夜席 19:00~21:00



2月21日(金) 朝席 9:00~11:00

(追弔会・総会) 昼席 13:30~15:30

講師 中山和正先生(山口県下関市 明専寺)

久しぶりのご縁になります。先生の独特な「中山節」で聴きやすいご法話です。お楽しみにお越しください。なお冷え込みが厳しい頃ですから、ひざ掛け等お持ちください。

また、夜席開始の時間を、冬時間として早めておりますので、ご注意ください。

 今月のさくらさん

前月書いたように、1月で1歳となりました。そこで、ひとつ思いがあるのです。さくらは4匹兄弟です。それぞれ違う場所に住んでいますが、「ライン」でつながっており、写真や文章で近況が分かります。また、さくらが生まれたブリーダーさんのところには、父親、母親、祖母が元気に暮らしています。

実は誕生日を機に、親や兄弟に会わせてみたいと思っているのです。生まれて数か月で親元や兄弟の元を離れ、どんな気持ちであったらうか?、また再会を喜ぶのであろうか?、その様子を見てみたいのです。

それぞれが遠方なので、中々スケジュールを合わせるの難しいとは思いますが、今年叶えたい願いです。



さくらの父



うちに来た頃

お知らせ

5月の親鸞さまのご誕生を祝う降誕会ですが、本年は本堂工事のため、中止とさせていただきます。例年ですと、お参り、ステージ、マルシェ等賑やかな行事で、楽しみにしていた方もおられたと思います。まことにすいません。来年は、美しく荘厳された本堂で、親鸞さまのご誕生をご一緒にお祝いいたしましょう!

お寺のお正月・御正忌法座

大みそかの除夜の鐘には、老若男女問わず、200人を超える方々が、眠い目をこすりながらもお越しく下さいました。幸い近隣からも「うるさい」との苦情もなく、安心してつくことができました。

除夜の鐘は、「108つあるといわれる煩惱を打ち消す」という意味で行われますが、なかなか難しいですね。それゆえ、阿弥陀如来様の救いは煩惱を消せない私たちが「めあて」なのです。

さて、日が変わり1月1日には、たくさんの方がお参りにお越しく下さいました。心新たに、阿弥陀如来様の御前で新年のご挨拶です。



さらに1月17、18日と御正忌法座を勤修いたしました。御正忌とは、親鸞さまのご命日である1月16日を機縁として勤めるものです。おかげさまで、天候にも恵まれ多くの方が、熱心にお聴聞くださいました。



ご講師は、山口県美祢市の明厳寺ご住職の中島昭念先生。前住職と同年ですが、未だ年間200日近く他の寺院へご法話に出ておられるそうです。本当にパワフルです。

道徳話や感動話でない、浄土真宗の要をきちんとお話くださいました。「元気で!長生き!幸福に!」を願う世の中ですが、「元気で!長生き!幸福に!」が難しい私が聴かせていただくのです。

さて、家族形態が変わり、「浄土真宗の教え」も家庭では伝わりにくくなっています。一緒におれば背中では伝えることもできますが、背中を見ることさえありません。それゆえ、亡き方の信仰の集大成である葬儀に行っても、念仏の声ひとつも聞こえない時さえあります。果たして何のための葬儀なのか?とも思うことがあります。

こうならないためにも、日頃から、お聴聞して「浄土真宗の教え」に親しんでおく必要があるのだと思います。これは、葬儀のためではなく、あなたの人生に関わる大切な事だからです。「めんどくさい」かもしれませんが、ぜひ続けて法座に来てお聴聞くださればと思います。

知っておきたい仏事いろいろ

法名とは?

- ・「法名」は、仏法に帰依し釈尊の弟子となった人の名前です。
- ・「法名」は「釋○○」の二字です。
- ・「法名」は、「帰敬式」を受式して本願寺住職(ご門主)からいただくものです。
- ・「法名」は生きている間にいただくものです。

〈法名Q&A〉

Q 「法名」と「戒名」はどうちがうのですか?

A いずれも、仏教徒としての名前を表す言葉ですが、浄土真宗では「法名」、他宗では「戒名」といいます。

戒名は、厳格な規律(戒律)を守って仏道修行する人びとにつけられる名前です。

それに対し、浄土真宗では、戒律の一つも守ることのできないこの私たちを、かならずすくい浄土へ迎えるという阿弥陀如来のはたらきを「法」とよび、その法のなかに生かされている私たちがいただく名前を「法名」といいます。

Q なぜ、法名には居士や大姉等の位号がつかず「釋○○」だけなのですか?

A 浄土真宗のみ教えは、みな等しくともにお浄土への道を歩ませただけという教えですから、「釋○○」の法名以外に「信士・信女・居士・大姉」等の修行生活の形態をあらわす位号などは必要ありません。

Q お世話になっているお寺から法名をいただけると聞きましたが?

A 本山で帰敬式を受け、本願寺住職(ご門主)から法名をいただくのが本来の形です。しかし、帰敬式を受けずに亡くなられた場合に限り、所属寺の住職から「釋○○」という法名をいただきます。

院号とは?

・院号は、永代経・門徒講等で一定額以上の懇志を進納された方など、宗門や本願寺の護持発展に貢献された方、または、宗門もしくは社会に対する功労が顕著であると認められた方に、授与されます。

・院号は、漢字二字(例・「○○院」とし、本願寺から授与されるもので、これ以外の院号は用いることができません。

お寺の行事案内

彼岸会・納骨堂法要

3月20日(祝)朝9時より

この法要では、お預かりしたお骨(分骨)を納骨堂へ納めます。これは、「通い親しんだ善徳寺へ骨を収めたい」との門信徒の思いから始まっています。分骨のみの取り扱いです。

また秋には、「親鸞聖人のおそばへ」という思いから開催される大谷本廟への分骨のための旅行が、深川組であります。

手続きの事がありますので、大谷本廟への納骨はこの時にご一緒に行きましょう。

